

## 第2回宇美町総合計画審議会 会議録（要旨）

日時：2022（令和4）年3月30日

場所：宇美町役場1階多目的ホール

1. 開会あいさつ
2. 委嘱状交付
3. 委員の紹介
4. 会長あいさつ（嶋田会長）
5. 事務局からの説明
  - (1) 第7次宇美町総合計画策定のための現行計画達成状況について（報告）
    - ① 宇美町現行計画達成状況報告書について
    - ② 宇美町現行計画達成状況一覧表について
  - (2) 宇美町まちづくりに関する町民意識調査について（報告）
    - ① 宇美町まちづくりに関する町民意識調査報告書【概要版】について
  - (3) うみまちトークカフェについて（報告）
    - ① 『うみまちトークカフェ』の記録について
  - (4) 今後のスケジュールについて
    - ① 第7次宇美町総合計画策定スケジュールについて
6. 閉会あいさつ

### 1. ～4. 割愛

---

### 5. 審議（意見・質疑）

---

#### (1) 第7次宇美町総合計画策定のための現行計画達成状況について（報告）

- この達成度を評価した人というのはいったい誰なのか。（委員）
- ➔ →まずそれぞれの担当部局で評価し、それをまちづくり課と支援を受けている委託業者でヒアリングし、A、B、C、D、Eの判断をした。（事務局）
- 評価するのが担当部局、それで果たしてきちんとした評価ができるのか。見た感じ結構甘いなど感じている。これでA評価、B評価なのかというものがかなり多く、本当に適切な評価かどうかというのが、非常に疑問である。

次回の達成度評価のときには客観的な視点を持った人にしっかり評価してもらおうというような検討が必要ではないかと感じている。（委員）
- これは多分、そもそもこの計画を策定するときに指標設定がしっかりできていないことからこうなっていると思われる。一応資料1-2などで右側に成果指標があがっているが、こういった指標自体が少ない。

評価を本人がやるかどうかということに関してはやっている課が行うということ自体は構わない。ただその代わり、やはり主観になってしまうと困るので、目標を立てて明確にしなければいけ

ない。

もう一つの問題点は、これを全部やったかどうかという評価となっていること。本来計画というのは、達成したというのはその目標が達成できたかどうかである。だから何回講座をやったということではなく、講座の結果どのような成果が現れたのかという、そこが成果指標でなければいけない、そこは客観的にみえるはずである。

そもそも計画がそのようになっていなかったため仕方ないと思うが、本当は、指標はやったことによる具体的な成果に着目して客観的な指標をできる限り設定し、そのときに基本的に個別の事務事業の単位でそれぞれに設定するわけである。

目標を達成していくために何が足りないのか、どう改善していくのかという観点から評価をする必要があり、決して自己肯定のための道具になってはいけない。

また、指標設定もこれは少し緩い。行政側が自己肯定できる、達成できましたよと自慢できる目標を立ててもあまり市民にとっては意味がない。新しい計画はその点に少し気をつけていただければ。今回はもう仕方がないと思う。(会長)

## (2) 宇美町まちづくりに関する町民意識調査について (報告)

- P. 14 の幸福実感について、仕事の関係で私も調べたのだが、日本人、日本の子どもの幸福度が OECD 諸国二十数か国のうちの最下位から 2 番目であった。それからいくと、日本のどこかの市町と比べても意味がないのかなと思う。どうせやるのだったら、宇美町は世界的にも幸福なのだというような主張をしないと、自己満足で終わるような気がした。

もう一つは、例えば貧困家庭や障がいのあるお子さんのいる世帯でみるとまったく変わらと思う。大事なのは行政というのは具体的に施策を練るのが行政だから、大雑把に調査するのではなくて、やはり、恵まれない家庭やそういったところがみえてくるようなかたちでやっていかないと、来年度どうしようかということで担当が困ると思う。

また、教育委員の立場からいうと、例えば不登校でも 10% ある。中学校で 10%。だから 10% の子どもも親も兄弟も親戚も、おそらく相当困っていると思う。そういったものがみえてこないというのが、今までのやり方の欠点だと思う。

したがって、アンケートをやるときには、困っている家庭の状況がみえてくるような調査をし、行政の施策に活かすようなかたちでやったほうがよいのかなと思った。(委員)

- 各アンケート項目についてこういう結果が出ましたで済みではなく、アンケート項目間の分析をもっとしっかりしていくということがやはり大事なのではないだろうか。特に幸福実感については、低い方々が他の質問項目でどのような回答をしているのかとか、こういった属性を持っているのかとか、そういったことをもう少し詳しくきちんと分析していただければと思う。もし可能であれば次回あるいは次々回で結構なので、もう少し、こういう結果が出たという分析結果を出していただけるとありがたいかなと思う。(会長)
- 町民意識調査の 3,000 人であるが、3,000 人で実際回収できたのが 1,441 人。地域によって差があるのではないかなと思うが、3,000 人の地域別の内訳として、例えば中学校区内だったらどのような割合になっているか、そこまでわかるか。(委員)

- ➔ 2 ページに 1,441 人の居住区別の結果を載せている。(事務局)
- 地域別にデータがあるのであれば、項目ごとに何か地域別で差が出てきているとか、そういうある程度目立った結果のようなものがあれば紹介いただきたい。(会長)
- 民生委員をしているが、地域によってもものすごく関心度が違う。例えば民生委員関係だけではなく、選挙だと、選挙のときに関心がある地域と、関心がない地域と差がある。選挙管理委員をしていて、そのように感じていたので質問した。
- ➔ 概要版でないほうの詳細版の 36 ページの「宇美町は安全に暮らせるまちだと思うか」で、居住地区別の分析をしており、目立った分析の部分を、原田小学校区と桜原小学校区では高くなっているというようなかたちで記載している。(事務局)
- それであれば、各項目について、居住地別のものを、別途まとめていただいて次回お示しいただくと、議論の役に立つ。(会長)
- ➔ 目立ったところについては、既に記載をさせていただいているが、それは抜粋してということか。(事務局)
- 調査対象及び調査方法であるが、町民の人たちの意見ということでの調査ということで、町民の方がどう思われているかということがすごく大事なことだと思うが、計画の中で町外から来られている人たちの意識がどのようなものなのかということも書かれたほうが、町外から宇美町に来てほしいとかそういうこと考えたときに、宇美町が町外の人たちにどのように見えているかということも調べる方法があればよいかなどは思う。
 

町外の人にアンケートをとるとするのは難しいと思うが、宇美商業の高校生などは町外から来られている人たちもたくさんいると思うので、中学生たちにも聞いていただいているのであれば、対外的にどのように思われているかという部分で、宇美商業の高校生の人たちにも聞いてもらえたりすると、対外的な宇美町のイメージということも少し測りやすくなるのではないかと。(委員)
- ➔ 「うみまちトークカフェ」のほうで宇美商業高校生にご協力をいただいて、参加者のほぼ全員、1 人以外の全員が町外の生徒であった。
 

たくさんのご意見をいただくことができました。のちほどまた説明させていただく。(事務局)
- ○P. 16、P. 17 で感じたことを率直にいいたいと思う。P. 16 の「(9) 大野城跡が日本遺産に認定されていることを知っているか」という問に対して、4 分の 1 の方が知っている。この数字が多いとみるか少ないとみるかというのは人それぞれだろうが、私にとってはかなりショックの数字である。
 

また、次の電子図書である。これも鳴り物入りで導入したが、なかなか普及が進んでいないという事実もある。こういったことを調べていただいたこと、非常にありがたいと思うのだが、その反面、この 17 ページの「(14) 情報を得るために使っている手段」ということで、実は「広報うみ」が一番というのが、それは町の広報なのでそれはそうなのだろうが、やはり町のホームページや SNS などの情報発信がかなり立ち遅れているなど感じる。

全体的に町でしっかり取り組んでいて、これは知ってほしい、こういったことを活用してほしいというようなものが、町民の方々に知れ渡っていない。情報発信がなかなかうまくいっていないのではないかなと、この結果からみえてくるのではないかと感じる。

私も議会の広報委員をやっているので、審議会、情報も含めて町のやっていること、力を入れて

いることというのをもっともっと情報発信してほしいと、いつも感じているので、そのあたりのお考えなど聞けたらありがたい。(委員)

- ➔ 今回の調査結果から、情報発信ができていないところが課題としてみえてきた部分がある。この後報告させていただくトークカフェの中でも、そのようなところが宇美町の弱点ではないかというご意見をいただいているところで、今後の計画の中ではこういったことにどう取り組んでいくかということが課題になってくるだろうと認識している。

広報に限らず色々な情報発信の媒体があるので、あらゆる媒体を使っての色々な情報発信の在りようについて、これからしっかり検討していきたい。(事務局)

- 13 ページにまた戻るが、「共働のまちづくりを進めるために必要なこと」、ここに如実に表れている。広聴活動の充実、広報活動の充実、ルールや指針の充実と町民への周知、これを多くの方が望まれているということをしっかり受け止めながら、周知活動について力を合わせてやっていきたい。(委員)
- 宇美町には、ひばりが丘をはじめとする大型住宅団地があるが、これらの団地の方々がご高齢になられて、その子どもの世代が今 30 代~40 代ぐらいだろうか。  
なかなかその方の定住というのが今難しいようだが、やはり子どものことや色々なことがあって、行政の取組に一番関心があるのは 30 代~40 代ぐらいの方かなと思う。  
行政として定住促進等々はなかなか難しいとは思いますが、今後の課題だと思う。(委員)
- ➔ 今後の定住意向については 4 ページに結果を載せているが、現在、宇美町のほうで定住に対する措置というのは、ご存じのとおりあまりない状態になっており、これについては今後考えていかななくてはいけないものと認識している。(事務局)
- アンケート結果の定住意向についてみると、30 代が結構高い。一方、40 代でぐっと下がるが、この原因が何かということとを捉えることが重要である。この 30 代から 40 代で下がってしまうというのは一体何なのだろうか。(会長)
- 保護者の方からお聞きするのは、宇美町からどこの高校に通うにしても、少し交通の便が不便だということ。それで引っ越しを考えると聞いたことがある。  
高校・大学まで見据えると、もう少し便利がよいところというのがあるかもしれない。(副会長)
- ただ今のご指摘を踏まえながら、まさにこの 30 代と 40 代、50 代でずっと低下していく原因をもう少し移住担当・定住担当に分析していただけて取り組んでいただく必要性があろう。(会長)
- 10 代~20 代は今後の定住意向について、「住みたい」の割合が 17.1%で、かなり 30 代~40 代よりも低くなっていく。  
今後 10 年~20 年たったときに、現在の 10 代~20 代の定住意向の低さというのは、後々宇美町の人口が減っていくということに深く関わってくるので、この 10 代~20 代のポイントをどう上げていくかも一緒に考えていければと思う (委員)
- 全般的に、今回の結果をみていると、「宇美町でいいまちづくり」という感じになっているかなと思う。つまり、宇美町がいいというよりも、福岡市のほうがよろしいのだけれども宇美町でもいいかなという感じの。不便をなくすだけではそのような感じになってしまいがちなのである。  
不便をなくすだけだと、やはりより便利なところに行ってしまうことになるので、愛着や誇りというところでのワクワク感のような、ここに住むことの面白さみたいなものがやはり必要だろう。

こうした点もぜひ検討いただきたい。(会長)

- 政治と投票率と町民意識というのは、乱暴なこじつけかもしれないが、投票率の低下と町に対する愛着心、どのようにとらえられるか。(委員)
- 乱暴に答えるとそこは連動する。特に、これはもう実際に研究が出ているが、市町村合併で区域が広がると周辺部の投票率が下がるというふうになっていて、やはりその愛着やそういったものとの関係性は確かにある。したがって、これらは連動すると考えられる。  
それから投票率は他のいろいろな要因が働いていて、例えば無投票が続いたりすると、やはりどうせ投票に行っても決まっているのだからといったようになる。だからやはり接戦であることやそういうことが大事なのと、候補者をどのぐらい知っているかというのも大事である。そのようないろいろな要因の中で決まってくるが、その一つの要因が愛着である。(会長)

### (3) うみまちトークカフェについて (報告)

- トークカフェに参加された方は公募に応募された町民の方も含まれているが、公募はどれぐらい参加されたのか。(委員)
- ➔ P. 2、P. 3に参加された方を載せているが、所属などと書いてあるところに「公募」と書いてある方が公募の参加者となっている。12月から1月くらいまで募集をホームページ、広報でかけて、メールで応募してきてくださった方である。手をあげた方は皆さんご参加をいただいた。(事務局)
- 全体のアンケートの中で10代、20代、30代が300人弱で、60代、70代の世代で300人というのを思うと、若い世代の意見が取りこぼされていかないように、丁寧にみていく必要があるのではないかと思った。  
若い人達、これから世代が交代していくときに次の世代が何を望んでいるのか、どういうことを考えているのかというのを分析して、今までどおりの町政ではなく、これからどう向かうかの町政を考えていくべきではないかと思う。  
例えば、さきほど愛着で30代が高く特徴的とあったが、絶対数が百何人かの中の意見に過ぎない。さきほど会長もおっしゃっていた、40代で定住意向が大きく低下するというようなところなどもきちんと分析し、そうであればどうしたらよいのか、アンケートの結果を出しただけではなく、どう次につながっていくかというのを皆で討議したり、行政の方と一緒に考えていけたりしたらよいと思う。(委員)
- 宇美町のこれからのを考えていくと、どうしても若い世代の意見をより重視して考えていく必要がある。(会長)
- 中学生でも高校生でも本来は地域に対して愛着を持っていると思う。  
中学の頃から、まちづくりや地域福祉については十分に意識が高い。だからこれからも町としても校区としても、やはり中学生の潜在化しているやる気なりパワーをどんどん掘り起こしながらやっていくことが重要で、小学生でも中学生でもやる気を持っている世代のパワーを活かすことが大きな課題であると思った。(委員)

- 大変重要なご指摘だと思う。それに関連して申し上げますと、トークカフェはもったいないと思う。なぜかという、してほしいことを基本的に聞いている。やはりできること、したいことを聞くべきである。共働のまちづくりという言葉を用いるのであれば、やはりそのような発想で考えなければ本当はいけなかったのではないかという気がしている。若い人達が関わって、そしてつながっていくというような仕掛けがあると、若い世代が住み続けたいと思ってくれるのではないか。(会長)
- 基本目標⑤の「産業の振興で活気を生むまち」の「施策5-2 農林業の振興」というところであるが、評価をみたらすべてにおいてA評価である。農業生産基盤の整備や担い手の育成、農地の保全など、すべてにおいてA評価なのだが、どのような評価点、どのような角度で評価されたのか。  
特に感じるのが農業生産基盤の整備。耕作放棄地がたくさんあったりして、これはAではないという気がする。実際に今から取り組んでいかないといけない大きな課題だろうと思っている。(委員)
- 例えば担い手の育成に関しても、なり手が何人いたなどという数値しか出ていない。これが十分なのかどうかというのがやはり問題なのであろう。  
何をしたかではなく、それをしたことによって宇美町の問題点がどの程度解消されたのか、そこをきちんと計画の中で示さないと意味がない。  
今回は仕方がないが、今のご指摘を受けて、特にこの農林業の振興については耕作放棄地の問題も含めてそれが今どのくらいの数がある、あるいは今後どれだけ増えそうな状況にあるかということを中心に踏まえた上で、計画的にそこを解消していけるような計画目標を立てていただきたいと思う。(会長)
- P. 7、次期総合計画を策定するにあたって重要なこととしては「障がい者に対する町民の理解、認識が足りない」ということがあげられる。障がい者に関する事業やイベントというのが、宇美町では障がい者と行政だけで収まってしまっているのではないかと思う。その部分だけで完結してしまっていて、広く町民の方々に知れ渡っていなかったり、共有されていなかったりということが課題としてあるのではないか。  
まちづくり課が中心になって共働事業というものを広く町民に呼び掛け、私もいくつかの事業に関わった。スポーツや音楽に関しては障がい者と一緒に楽しめる音楽会やスポーツイベントを考えて提案に結びつけられたのだが、障がい者に対してやさしい政策を打っていくことを通じて、例えば高齢者や子ども、子育て中のお母さんや家族といった方々にとってもやさしいまちづくりというののできていくのではないかと考えるようになった。次期計画では、障がいのある方々にやさしいまちづくり、そして地域共生社会の実現に向けたまちづくりに活かせるような施策が出てくるとよいのではないかなと思っている。  
こうした点について、ぜひ重点的に考えていきたいなと思っている。(委員)
- トークカフェは、コロナ禍で色々制限された中で人数制限などがあったのではないかと思うが、若者の代表である高校生が参加している。  
これに関して、小・中学生やそういう方々も参加してもよかったのではないかと思う。一緒に語

り合って次につながるものが生まれたかもしれないと思うので、特にコロナが落ち着いてきたらそういうものも教育なのかなと思う。

それと、まちへの愛着度ということでアンケート調査を行い、中学生では“好きだ”という回答が63%ということなのだが、具体的にどのようなところが好きだとか、どこが好きではないというところを少し知りたかったかなというのがある。

これから宇美町を支えていくのは子ども達、ジュニア世代だと思うので、そういう人達が本当にストレートに思っていることを知ることが大事。もし今後アンケート調査等が行われるときは、ただ丸をつける回答もよいのだが、具体的にどういうところが好きかを書いてもらうといいのではないかなという気がした。(委員)

- トークフェの高校生の話の中で、宇美町のよくないところは観光であり、宇美八幡以外にシンボルがないという意見が出ているが、このことに対して、何かこういう物をつくるとか、こういう方向性があるといった町のお考えはあるかどうかを伺いたい。(委員)
- ➔ トークカフェでは、言いたい放題というか、「行政が何かを説明するような会議ではない」というかたちで、「思ったこと」、「言いたいこと」自由に発言してもらった。  
参加者の発言に対し、行政の考えを述べるというような形式のものではない。(事務局)
- 観光巡りとして宇美八幡以外にルートづくりをしないと今後伸びていけないと思う。  
例えば萬代酒造さんや小林酒造さんの辺りを活性化してもらって、新酒ができましたというようなことを今後進められないものかと思った。(委員)
- ➔ そうしたご意見を参考に、私達も考えていけないと思っている。  
また、中学生アンケートについて自由意見を聞きたかったというご意見が委員からあったが、それぞれの1問1問に自由記載はないが、一般町民向け、中学生向けアンケートのいずれにも、一番後ろのページに自由記載欄を設けており、今日は資料として出していないが、1,441人の町民の分だけでも五百件余りのご意見をお寄せいただいている。  
これら自由意見については、庁舎の中では共有している。(事務局)
- ぜひ次回参考資料として私どもにも共有していただけるとありがたい。(会長)
- トークカフェの試み自体は非常に素晴らしいとは思っているのだが、やはり「トークカフェに参加できる」というだけでだいぶ条件が絞られるのではないかなと思う。  
参加者をみると、やはり自営の方や高齢の方、土日がお休みである程度時間に余裕がある方に見える。いわゆる現役世代、20代~40代の会社にお勤めの方にはなかなか参加のハードルが高い。  
将来的にはそういった人たちの意見を聞く場、機会などを設けていけたらよいのではないかなと思った。(委員)
- 町にもご協力いただき、年末から年始にかけて駅前のイルミネーションを2年ほどさせていただいた。町民がやすらげるようなスペースづくりとしてやっており、町民の評判もそれなりによいと思うので、今後ともやっていきたいし、ご覧になる機会があったらご覧いただきたいと思う。(委員)
- 貴重な意見を聞かせていただいているが、コミュニティ運営協議会として申し上げたいことがあ

る。資料1-1の32ページである。各小学校区コミュニティ運営協議会の活動にばらつきがあるとなっている。このところであるが、今後、「活動の充実のため支援を行っていく必要がある」と記載されている。私はこのコミュニティ活動を4年間みてきて、コミュニティの活動を地域の皆さん、そしてまたここにいらっしゃる皆さま方が承認しているのだろうかという不安を抱くことがある。というのは、役員になる人材が不足しているという現状にあり、なぜ不足するかというと、活動にはお金がやはりそれにかかるわけであるが、活動費が十分ではない

市街地を中心にやっている自治会の場合には、自治会長の任期が終わると辞めていかれるというようなことで、どうしても役員不足が起きる。やっと慣れたなと思ったら辞めていかれるというようなことが続いていて、これに歯止めを掛けるためには、何とか充実した資金が必要だと思う。やはりお金をかけないことにはコミュニティも将来空中分解を起こす心配がある。(委員)

- 確認だが、事務局を専任で雇うだけのお金は出ているのか。(会長)
- 町として1,000万円拠出しているが、それを各コミュニティや各自治会で分配するので、そこまでは出していない。(事務局)
- 論点は事務局機能である。役員も大事なのだが、やはり事務局がどれだけしっかりしているかが大事で、そこにはやはり公金を、指定管理料といったかたちで出していきながら事務局機能をしっかりしていくということも検討する必要があるのではないか。

コミュニティの在り方については、もう少し行政としても研究されたほうがよいのかなという印象を持った。これは今後の課題である。(会長)

- 少し戻って資料2に関してだが、確認しておきたいことがある。町民アンケートの満足度と重要度に関して、考え方としては、重要度が高いもの、皆が重要だと思うものが優先になる。

そのうち一番重要なのは、「重要だけれども満足度が低い」ものである。これはやはり集中的に取り組まなければいけない。その整理はしっかりしていただきたいなと思っている。

次に、広報の在り方については人というのを媒体にしてみてもらおう工夫をしていくというのは大事だと思う。今日の審議で全体的に感じたが、やはり「人」というのがキーワードかなと思った。

最後に、高齢者の方々のご意見を中心としてしまうと、住みやすい、ここに住んで不便はない、不便の解消に向けた話題が中心になってくるが、面白さ、ワクワクといった要素をもう少し加えていかないと、「宇美町がいい」とはなっていないのではないかと。宇美町でいいというのではなく宇美町がいいという、「で」と「が」の違いは結構大きいので、そこはやはり意識したほうがよいかなと感じた。(会長)

#### (4) 今後のスケジュールについて

- 大雑把にいうと、総合計画というのは宇美町に関する基本構想と実践計画からなる。基本構想というのは抽象度が高く、具体化してどうやってどう実現していくのかというものが実践計画ということになる。したがって、基本構想がまず中心となり、その上で個別の数値を出しながら具体的な施策を実践計画に落とししていくということになる。

とにかく基本構想は基本構想で確定していただきながら、数値目標等を検討し、現状をきちんと分析して実践計画の策定をお願いする。(会長)

## 6. 閉会あいさつ

---

- ➔ 嶋田会長には議事進行いただき感謝申し上げます。委員の皆さまにも、長時間にわたりご審議いただき、ご意見等賜り感謝申し上げます。さきほども申し上げたように、次回の会議については6月ごろを予定している。以降令和4年度については具体的な審議が始まるということで、少しタイトなスケジュールの中で進めいくが、ご協力をよろしくお願いしたい。

以上